

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	お城を中心としたまちづくり事業			事業コード	2407
所属コード	092000	課等名	公園みどり課	係名	計画担当
課長名	及川 直文	担当者名	似内 啓邦	内線番号	7267
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	うるおいのある公園・街路樹の確保	コード	4
	基本事業	スペースの確保	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 8 款 4 項 7 目 都市公園整備事業（002-03）			
特記事項 (H26)	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度		開始年度	20 年度
根拠法令等 (H26)	文化財保護法，都市計画法，都市公園法，盛岡市都市公園条例，盛岡市景観条例 盛岡市中心市街地活性化基本計画，お城を中心としたまちづくり計画，史跡盛岡城跡保存管理計画，史跡盛岡城跡整備基本計画			

(2) 事務事業の概要

本事業は，盛岡市中心市街地活性化基本計画において，主要な事業として位置付けされており，「お城を中心としたまちづくり計画」を踏まえ，史跡の保存整備と都市公園整備との調和のもと，都市と美しい自然の調和，並びにお城の風格や城下町の情緒など地区の特性を活かした総合的なまちづくりを目的としている。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

盛岡城跡公園を中心とした将来のまちづくりビジョンの検討において，史跡との共存を前提とした魅力ある公園整備を目指し，もりおか歴史文化館の整備や櫻山神社周辺の整備の方向性を見出す必要があったことと併せて，盛岡市中心市街地活性化基本計画が認定されたことによる。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

盛岡城跡公園並びにその周辺地区について，整備計画や賑わい創出のための個別具体的な実施計画の策定が必要であり，平成 23 年度には史跡盛岡城跡保存管理計画を，平成 24 年度には史跡盛岡城跡整備基本計画を策定した。平成 27 年度は三ノ丸石垣の修復実施設計策定の後，平成 28 年度から三ノ丸石垣の修復工事の実施を計画している。

また，岩手公園愛称検討懇話会や市議会などから「単なる愛称の決定に止まらず，公園や周辺地域の資源を活かし，市街地の賑わいを生み出す魅力のある公園として，公園を中心としたまちづくりを進めることが大切である」との意見がある。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

市民，観光客

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 人 口	人	298,853	299,220	299,220	299,585	298,857
B 観光客見込数	万人	466	471	472	490	497
C						

（3）26 年度に実施した主な活動・手順

盛岡城跡公園内の無電柱化・電線地中化等基本設計
 史跡盛岡城跡の維持に伴う石垣変位調査，石垣測量図化
 史跡盛岡城跡の修復に先行する発掘調査，遺構等測量図化
 盛岡城跡整備委員会の開催
 お城を中心としたまちづくり懇話会の開催

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 工事費	千円	14,402	0	630	0	0
B 委託料	千円	0	4,253	4,695	7,936	6,014
C 事務費（発掘調査・委員会開催等）	千円	0	627	2,040	2,920	2,871

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

近世城郭の史跡としての歴史的価値と近代以降の文化的景観の保全と調和を図りながら，盛岡の象徴的なランドマークとして整備を推進し，盛岡城跡公園とその周辺地区の利活用を推進し，賑わいを創出する。

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 盛岡城跡公園付近の歩行者交通量 （サンビル・Est21 前の交通量，毎年 3 月 に 2 日間調査）	■上げる □下げる □維持	人	15,261	16,148	16,702	16,700	14,840
B 市街地への観光客入込数	■上げる □下げる □維持	万人	384	383	389	403	415
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
事業費	①国	千円	1,300	0	2,744	1,836	3,927
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	9,700	0	0	0	0
	④一般財源	千円	3,402	4,880	4,621	3,637	4,958
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	14,402	4,880	7,365	5,473	8,885
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000
計	トータルコスト A+B	千円	30,402	20,880	23,365	21,473	24,885
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

盛岡城跡公園は、市街地の中心部にあることから、本事業の推進により市の中心市街地のにぎわいを与え、うるおいのある都心の魅力を高めることができる。

② 市の関与の妥当性

文化財保護法に基づく史跡盛岡城跡の管理団体は盛岡市で、また都市公園法に基づく盛岡城跡公園の管理者は盛岡市であることから、安全かつ快適な公園の維持のために適切な維持管理を行うことは適切である。さらに本事業の推進は、中心市街地の活性化にも寄与することから、市の関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

市民のほか、観光客を対象としており、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

本事業は、中心市街地の活性化計画において主要な事業であり、盛岡城を中心として発展してきた歴史的背景からも盛岡城跡公園を活かすまちづくりを行わないことは、盛岡市の個性を失うことになる。本事業を各種中心市街地活性化の関連事業と連携して取り組むことにより、市勢の推進に有効であることから、廃止・休止は今後のまちづくりに大きな影響を与える。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

盛岡市や盛岡城跡公園のガイドンス施設として位置づけられる「もりおか歴史文化館」における各種ソフト事業や盛岡地区かわまちづくりなどの歳時の催しなどと連携を図ることで相乗的かつ増幅する効果が得られることから、向上の余地が多分にある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

広く市民や観光客を対象としており、特定の受益者はない。

(4) 効率性評価

事業の推進に当たっては、必要最低限の予算で推進しているほか、グループ内の協力体制により人件費の抑制を図っている。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要 (新しい総合計画体系における位置付け)

総合計画 体系 (新)	施策 (方針)	都市基盤施設の維持・強化	コード	26
	小施策 (推進項目)	都市公園の整備と利用促進	コード	3

(2) 改革改善の方向性

本計画の短・中期的事業の促進を図り、長期的事業へとつなげていく。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

本計画の推進に当たっては、事業費の確保はもとより、関係部局が多岐にわたっていることから、横断的な連携を図る必要がある。そのためには、総括的に事業を推進していく部局の設置が望ましい。

また、盛岡城跡をはじめとする中心市街地とその周辺に立地する歴史上重要な史跡・建造物や、地域の歴史と伝統を反映した人々の活動を維持・向上させることを目的として、「盛岡市歴史的風致維持向上計画」を策定、計画の認定を国に申請し、国の各種事業による事業費の支援や法律上の特例措置を受けつつ、事業の推進を図ることが望ましい。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持 (従来どおりで特に改革改善をしない)
- ☒ 改革改善を行う (事業の統廃合・連携を含む)
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

本事業の核となる史跡の保存整備、公園整備には多額の事業費が必要であり、市の財政が逼迫する中、刻々と変わる国の各種支援事業を注視し事業費確保に向けた検討が必要である。

また、本事業の推進に当たっては、賑わいの創出、中心市街地活性化のために、各関係部局の横断的な連携が必須である。